

1 主 題 「いじめ」を止める行動

2 教材名

18 「いじめ」をなくすために

3 主題・教材について

「いじめ」は、被害者（いじめられている者）と加害者（いじている者）だけの問題ではなく、その周辺にいる、観衆（行為を肯定的に捉えている者）や傍観者（見て見ぬふりをする者）も含めた、「集団の問題」として捉えなければならない。観衆は積極的に、傍観者は暗黙的に、それぞれ「いじめ」を支持する役割を担っており、「いじめ」の持続や拡大には、これらの立場にある人の有り様が大きく影響する。

傍観者の中には、「いじめ」はだめだという認識をもっている人も少なからずいるはずである。しかし、現実には、「いじめ」を止めたいと思ってはいても、被害者になることを恐れて「いじめ」を止められずに黙っているという実態も少なくない。

この教材では、「いじめ」を構造的に理解させ、「いじめ」を止めるため、自分たちができることを具体的に考えさせたい。そして、観衆や傍観者の立場を「いじめ」を許さない立場へと転換し、「いじめ」を積極的に止められる人として成長させたい。

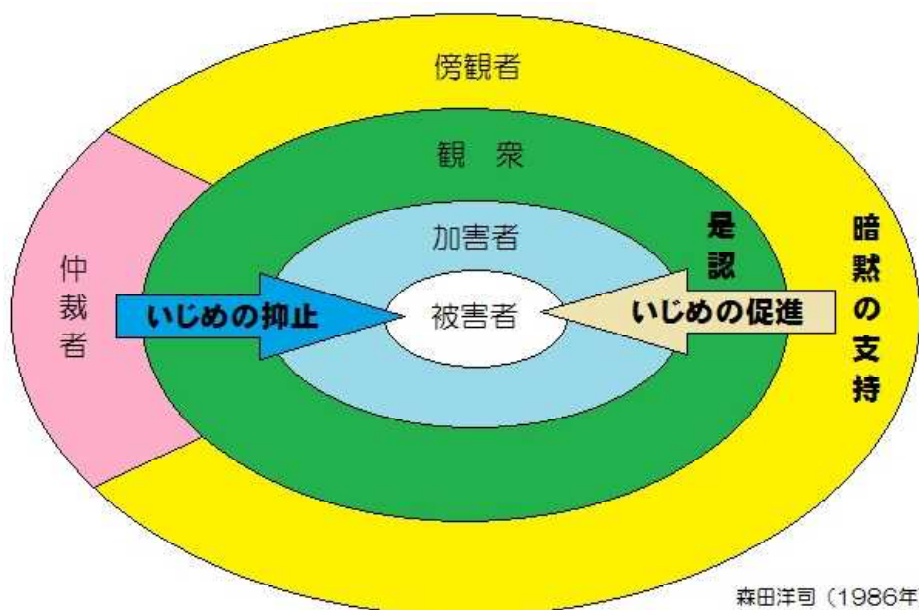
（関連教科・領域：特別活動）

4 ねらい ・「いじめ」を「集団の問題」として捉え、「いじめ」を止める行動について、具体的に考える。

5 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	「いじめ」という言葉から連想することや知っていること、考えていることなどを発表する。	「いじめ」は決して許すことのできない人権侵害であることを確認させたい。	
展開	「いじめ」の構造について考え、自分の立ち位置を決めよう。 - 教材の本文を読む。 - 登場人物の関係を整理する。 - 登場人物以外の人々が「いじめ」とどのように関わっているかについて考える。 - 自画像を描き、「いじめの4層構造」の図中に、自分の立ち位置を決め、貼る。	「Cさん」は「いじめ」を止めたいという気持ちがあるが、自分がいじめられるのを恐れているという状況をつかませたい。 - 観衆や傍観者の存在に気づかせ、彼らを含めた集団の構造を整理する 「いじめ」に対する自分自身の立場を決意させたい。	掲示用シート（DVDから） 画用紙
	「いじめ」をなくすために何ができるかを考えよう。 「いじめ」を止めるためにできることを「Cさん」の立場に立って具体的に考える。 - グループになって、ワークシートに書いたことをもとに話し合う。 - グループで話し合ったことを全体化する。	- 以下の4つの視点から書かせる。 自分一人ですること 友だちと協力すればできること かんたんにできること がんばればできること - 書けないところは無理に書かなくてよいことを確認する。 - 友達の意見を否定せず、いろいろな考え方があることに気づかせる。 - 似ている意見や違う意見に着目しながら整理していく。	ワークシート
まとめ	今日の授業の感想を書く。	「いじめ」を止めるという強い意志を表明させたい。	感想用紙

【資料1】 「いじめの4層構造」



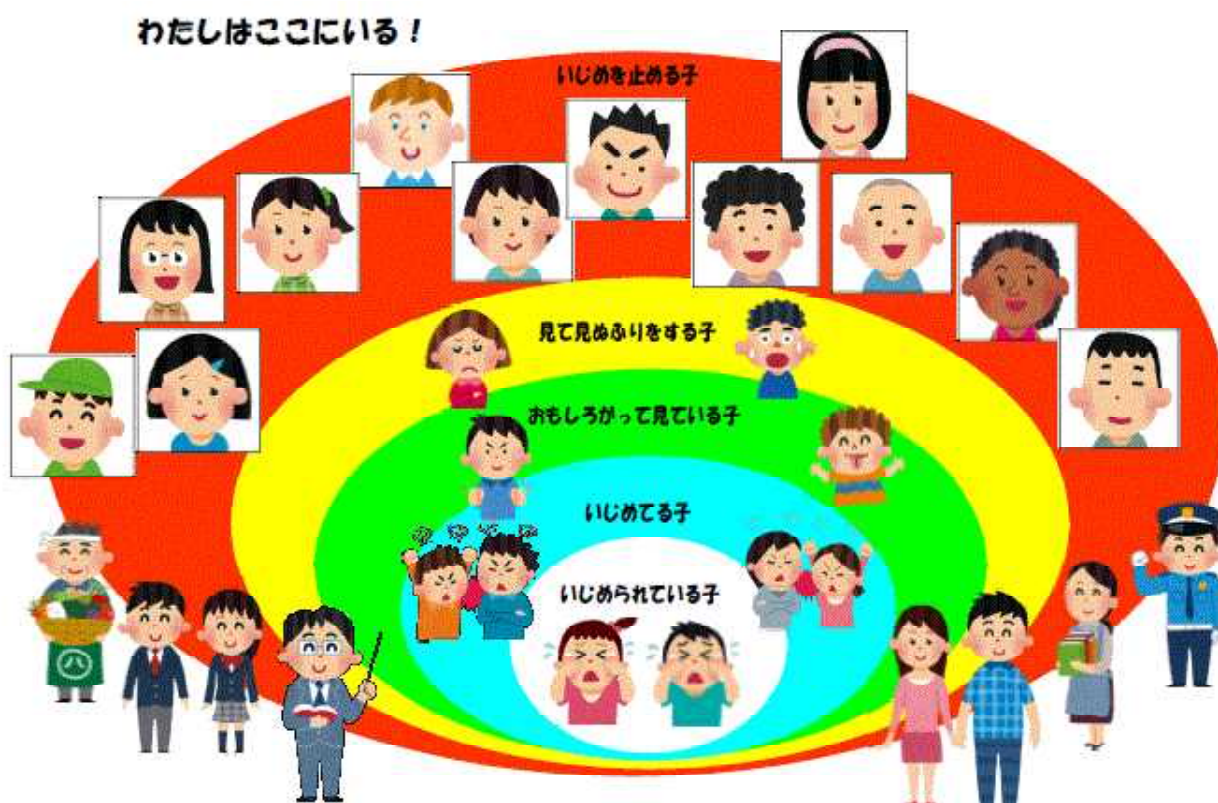
被害者…いじめられている人

加害者…いじめている人

観衆…いじめをはやし立て、おもしろがっている人

傍観者…いじめに加担しているつもりはなく、被害を与えることをしていないが、いじめを止めようとする行動をしない限り、被害者には加害者側に立っていると捉えられる人。

【資料2】 「いじめの4層構造」の図を使った掲示物の例（DVDに掲示用シートを収録しています。）



- 模造紙等にかかれた「いじめの構造図」に、子どもたちが描いた自画像を、自分の立ち位置を決めて貼らせる。
- 教室に掲示し、日常的に目にすることで、いじめを許さない環境であることを確認できる。
- 周囲に大人の存在を描くことで、大人を頼ることもできるという隠れたメッセージにもなる。

「いじめ」を止めるため、「わたし」ができることを考えよう！

名前 _____

一人でも、がんばればできること

一人でかんたんにできること

一人でがんばるよー！

がんばったらできるかな

かんたん、すぐできるよ！

友だちといっしょに
がんばればできること

友だちといっしょに
すぐにできること

友だちといっしょにがんばるよー！

